マスターズ通信



第 21 号

小平マスターズスキークラブ

会長 森屋建男 編集 森屋建男

2012年11月14日発行

「24茶」

森屋 建男

今年の秋の一泊ハイクは初めて中止になった。総会の際に配ったその案 内のカラー写真で紅葉があまりにも素晴らしかった。それを確かめに、ス キー連盟創立50周年パーティーが終わってすぐに、磐梯吾妻スカイライ



ン、その先の蔵王エコーラインやロープウェー、山寺、最上川、鳴子峡などを回ってきた。 予想通り紅葉にはちょうどいい時期で堪能できた。その帰りにサービスエリアで白石名物 の「うーめん(温麺)」を買ってきた。寒くなってきた時期なので煮込みにして食べてみた。 我が家3人の年寄には食べやすく、結構旨かった。

この「うーめん」は素麵と同じようだが、素麵が生地を延ばしてから乾燥を防ぐため油 を塗るそうだが、それを塗らずに長さを短く10cm程度で作ったものだ。なぜ油を使わ ないのかというと、元禄時代のころ素麵を食べ過ぎて胃を悪くした父に、息子が旅の僧か ら油を使っているから悪いので、油を使わない作り方を教わった。それを父親に食べさせ ると、それからは胃が良くなったという孝行話が始まりで、白石近辺で広まったそうだ。 その話で、私の父が非常に素麵好きだったことを思い出した。50代の頃、胃を悪くして 5分の4を切り取った。原因は素麵ではなくてストレスと酒だったと思うが・・・。



今年の夏はすごく暑く、ウチでは素麵が当たり前のようにお昼に 何度も出た。自分は胃腸が丈夫だから、ほとんどのものは大丈夫だ し、麺類は胃に優しい食べ物と思っている。夏で胃に優しいと言え ばずっと飲んでいるのがあります。それは東北の業者から買ってい <u>うーめん</u> る薬草や茸類や昆布など24種を配合したもので、小袋に入ってお

り、そのひと袋を2リットルぐらいの水に入れて煮たお茶です。夏は朝から夕方までの運 動で、多い時には4リットルほど、その冷たくしたのをゴクゴク飲んでもまったく大丈夫 です。癖がないし寒い季節はその熱いのも飲みます。ウチでは「24茶」と呼んでもう1 0年以上も愛飲しています。この10月、テレビでエノキを干して乾燥させて、それにお 湯を注いで飲むダイエットをやっていましたが、「24茶」が効くかどうかは分かりません。

冷たいのを飲み過ぎても胃が悪くならず元気でいられるのはそのお陰かもしれないが、 そうは言っても、いつどこが悪くなってもおかしくはない歳になってきています。あのス キーの三浦雄一郎氏が今年で80歳になり、来年三度エベレストに挑むと言っています。

60代のメタボを克服して70歳で初登頂し、再度75歳でチャレン ジした時は、その1年半前と1年前に2回の心臓手術を行い、リハビ リ時間の足りないのに出発し、見事に登頂したそうだ。強靭な身体の 人でさえ患っています。手術してもまた登ろうというのはすごいです し、80になっても登る気力もすごいチャレンジです。このように年 取っても人生を豊かにしてくれる何かを掴んでいければいいですね。 「24茶」



スキーをやっていると言うと、「今さら」とか「よくやるね」という感じで冷やかに見ら れることがあります。最近では我々より若い世代の人でもそうかもしれません。まして後 期高齢者前後の我々は「怪我をするのがオチだから・・・」と勧告されてしまいます。自 分にとって毎年のスキーは、三浦雄一郎のエベレストチャレンジのようなものです。だか ら怪我しないように、暑い時は素麵が毎日出ようが美味しくいただき、また「24茶」を 飲みながら、あと○年か、欲言えば○○年、たとえ勧告されてもできればいいと思います。

連盟創立50周年 記念パーティー 2012/10/20(土) 国分寺Lホール 飛鳥

小平市市制50周年と同じく昭和37年 にスキー連盟ができて、今年で50年。 会員と来賓合わせて90人ぐらいの盛大なパーティーでした。

マスターズからは急にご主人の具合が悪く なったり、日にちを間違えてしまった方がい ましたが24名が参加しました。

来賓では猪谷千春氏が皇后陛下の誕生日に 招待されることになって残念ながら欠席され 、また市長もちょうど市制記念の行事があり 副市長が来られた。連盟理事20年以上で特 別功労賞に喜多さん、10年以上で功労賞に 森屋さんが授与された。

思い出の写真をパソコンからプロジェクターに70枚もナレーション付きで映して過去を振り返りました。

大抽選会では最後に八木さんがジャンケンでキャスター付きのスキーバッグをゲットして盛り上がりました。帰りに一人ひとり記念誌を持って、ある人は二次会へ。





飯島 富美子



いよいよ、スキーシーズンの幕開けです。

メンバーの中には、すでに大分滑りこんでいる方々もいらっしゃるようでしたが、私は正 に初滑りで「初滑りツアー」に参加するのも今回が初めてでした。

午前7時、最終ピックアップ地点の花小金井を出発し、上越国際スキー場へ向かいました。今年は、日本海側は雪が多いと聞いていましたが、すでにトンネルの前から雪が積もり、トンネルを抜けると想像以上の積雪でした。シャトーのような巨大なホテルグリーンプラザに到着すると、もう部屋に入れるとのこと、うれしい限りです。



今回は久し振りに参加なさった市丸さんと田村さんなどをリーダーに、大よそ3グループに分かれて11時頃から滑り始めました。雪が降りしきる中、視界も悪く、早々に「おしるこ茶屋」で



昼食をとっていると、岸本ファミリーとバッタリ会い、私を含む3人は岸本さんに教えて頂くことにしました。視界が悪いとどうしても腰が引けてしまうのですが、それでも4時近くまで滑り、巨大ホテルで夕食も混雑するから早めにということで5時30分か

うら大食堂でバイキング。

皆さん私も含めて、お腹いっぱい頂きました。 お風呂も大浴場が2つ有り、思っていた混雑も なく、皆さん早めに就寝なさったようです。

2 日目も朝から雪、森屋さん夫婦と和合さんが合流され、滑り始めましたが、スキー大学が開講されていたり、修学旅行の学生がいたりで、ゲレンデもレストランも大混雑でした。さすがスキー大学の生徒は皆さん上手でしばしみとれていました。

私達は岸本さんと昼でお別れし、森屋さんと

ご一緒させて頂くことになりました。午後は陽が出て、やっと視界が開け、スキー場の様子がわかってきました。ところが 1 級の課題の不整地を滑りますと整地されていない最大傾斜 3 8 度の大別当ゲレンデへ連れて行かれました。雪が柔らかかったので、どうにか転ぶことなくやっと降りてきましたが、本当に疲れました。



ろホテルに戻らなければならない時間となり、後ろ髪を 引かれる思いでゲレンデを後にしました。

ホテルの部屋も午後3時まで使わせて頂くことができ、お風呂にも入り、本当にゆっくりチェックアウトができました。

今回は、今まで参加したマスターズスキーツアーの中で一番楽をさせて頂いたツアーでした。色々と交渉にご苦労下さった幹事さんに感謝致します。

おしるこで満足し、板間違えたって、ウソ~!



本日の夕食はちょっとグレードアップして「ラ・セゾン」のバイキングでした。メインもデザートも大満足です。

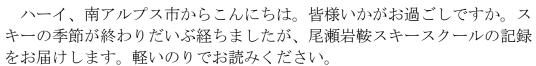
3日目は降っていた雪も9時頃にはほとんど上がり、田村さん引率のグループに入れて頂き、快調に滑り出しました。竹内さんたっての希望で今度はピステのかかった大別当を滑り、転んだら下まで落ちてしまうと思いながら、誰も転倒することなく無事滑り降りることができました。そろそ





スクールの記録 尾瀬岩鞍 2012/1/23(月)~26(木)

河西 房子



1月23日最初の集合場所を少し遅れてバスが出発しました。私は神田さんの奥さんに 見送られてルネ小平から乗り込みました。1年ぶりにマスターズの方にお会いしましたが、 皆様お変わりないご様子でお元気でした。最終花小金井駅を雨の中、全員揃い7時ごろ出 発しました。





幹事の漆田さん、原山さんの挨拶、集金、これからの予定などの説明、の後はもう、いつものミニ宴会賑やかでした。途中雨も止み、11時過ぎに「やまと」に到着。各荷物を受け取り、決められた部屋に入り、皆さんいつもの事なので、素早い!とてもシルバークラブとは思えません。ここでハプニング、漆田さんの荷物が間違えて奥様の荷物が届けられていました。明日手続きしても、いつ本人の荷物は届くのでしょう。気になりつつも私は2-6で就寝。



第1日目。

快晴、いつものように班に分かれてのスクール。私は部屋もご一緒の熊井さん、出口さん3人で、熱血講師相澤さんに3日間お世話になります。万年3級の私は皆様の足手まといならないようにと思いつつ、準備体操の後リフトに乗って横滑り練習。もうここで皆さんよりかなり遅れて、ズルズルです。3人にそれぞれ課題が与えられ、それを目標のトレーニング。私の課題は「足を揃えること」。それには横滑りがしっかりできないと始まりません。3本ほど滑ってゴンドラへ、ミルキーウェイで練習です。肩をしっかり振り込んで方向を変えるのですが、振り込んでいるつもりがなかなかうまくいきません。時間はお昼、「やまと」に戻り、味噌ラーメン。サービスのヤーコンの漬物もおいしく、食後のコーヒーも魅力でした。漆田さんの荷物は明日届くとのこと。イライラもせず、ニコヤカナノハお人柄でしょうか、うらやましい。

昼食後はまたゴンドラへ。午前の続きです。私以外はかなり順調に課題がこなせているようです。

良い天気でのども渇き、一休み。ココアを美味しくいただきました。3時から指導員による模範の滑りがあるとのことでしたが、自分達の技術を磨くべきと3人の意見が一致し、またゴンドラへ。2・3本滑るうちに何となくコツがつかめ、足も揃うようになりました。最後は女子国体コースを滑り、早目ですが温泉に行く予定があり終了。

初日のせいか皆さん早く隣のホテルの温泉に向かいました。硫黄の香りがして、いかに も温泉という感じで、疲れが取れる感じでしたが、少し混んでいたのが残念でした。



美味しく食べて満足 思い切り飲んで満足 滑り方は不満足? もうどうでも、ハハハ

6時からの懇親会が15分早めで始まり、ビールで乾杯。その後は日本酒、ワインといろいろ。それに合う竹内さんのいつものキムチ美味しくいただきました。原山さんの毎年の駄洒落「お酒と妻は2合まで」も健全、楽しく賑やかな懇親会でした。この後熱心な班は講師の方を捕まえてスキーの勉強会。2-6のメンバーはお部屋で整理体操の後就寝。

第2日目

少し曇っていましたが滑りには影響なさそうです。いつもの記念撮影の後、リフトへ。 基本練習、横滑り、未だうまくいきません。2・3本滑ってゴンドラへ。昨日の続き、振 込です。少しうまく回るようになり、意識しなくても足が揃うようになってきました。長 い距離をトレインでターンの練習をしたり、あっという間にお昼です。

「やまと」に戻り、今日は昨日萩野さんが美味しそうに食べていたサラダうどんにしま した。あっさりして美味しかったです。サービスの干し芋もいただき、食後のコーヒーで くつろぎ午後の練習にそなえました。ゴンドラに乗り、2・3本くらい滑ってからビデオ 撮影。「えっ、やだー」と向上心のなさ、講師に申し訳ないですね。撮っていただいたのを レストランで観賞。まともに見れずにはらはら。でも少し足が揃っているということで安 心。他の二人はしっかり滑れてうらやましい。熊井さんは1級も近い。あと2本滑って出 口さんと私は終了。熊井さんは相澤さんともう少し練習、お疲れ様です。

「やまと」に戻るも今日はホテルの温泉利用できず残念。順番に宿の小さなお風呂に入 り、夕食。今日は小川先生のビールの差し入れや、関口さんのお酒の差し入れでアルコー ルは十分。舌の滑らかさも絶好調、今日も楽しい夕食でした。

夕食後それぞれの班でビデオをテレビに接続して滑走を見るようでしたが、我が班は2 -6に戻り、熱心な練習に疲れたのか、テレビ観賞の後就寝。なんと怠けた生徒でしょう か、お許しを!



第3日目

今日は最初の日にもまし て快晴。またリフトに乗って 基本の横滑り。初日と変わら ずうまく滑れない。「相変わ らず下手だなー」と神田さん の声が聞こえてきそうです。 願わくば又ご一緒に滑りた かったと、一人しんみり。頑 張るしかない!

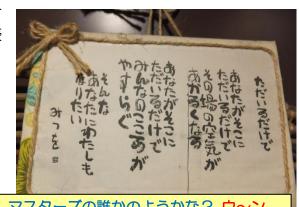
最終日なのでゴンドラへ。

ミルキーウェイで2・3本長いコースで滑る。振込が少しできて、ターンも最初よりスム ーズにできるような気がするのですが。出口さんもきれいな弧が画けるようになり、3人 それぞれ課題に少し近づいたのでは?相澤さんの熱い指導のお陰です。

3時に出発なのでお昼は早めにして、私と出口さんは終了。相澤さんと熊井さんはまた ゴンドラへ。今日は温泉に入れ、しかも貸し切り状態。ゆったりのんびり疲れを取りまし た。いつも慣れた帰り支度、手際良く出発時間より早めにバスに乗り込み、岸本さんや宿 のご夫妻に見送られ出発。途中、会費の余りでビール、ジュース、アイスクリーム購入し、

それぞれいただきました。バスの中でも熱心な方 はスキー談議に花を咲かせ、飲む人は駄洒落で賑 やか、皆さんお元気です。

6時ごろ花小金井到着。皆様にお礼もそこそこ に電車に乗り込み、立川から「あずさ」で甲府へ。 迎えの車で自宅の南アルプス市に到着。お疲れ様。 幹事さん、クラブの皆様お世話になりました。 こんな私ですが来シーズンもよろしくお願いしま す。



〜イレには相田みつを "ただいるだけで"が。マスターズの誰かのようかな? <mark>ウ〜ン</mark>

八方・五竜ツアー 2012/2/7(火)~2/10(金)

真杉 靖夫

2月7日

花小金井を 5 時 10 分前に出発して途中、ルネ小平、中央公民館、全観交通 を経て中央高速へ。途中双葉で晩飯 40 分、梓川でトイレ休憩 10 分で 10 時半に丸金到着。 途中の道路はほとんど雪はない。昨日と今日の雨でとけたらしい。丸金前ではバスは奥へ

> 入れず、ご主人が入り口から宿前まで荷物を運んでくれた。 丸金旅館は混んでいるらしく、珍しく男性陣は3階の部屋。 風呂に入り一杯やって寝る。

2月8日

幹事さんの手配の6時半の目覚ましで起床。7時から朝飯。 8時半にバスが来て、今日はHAKUBA五竜47へ出かけ

る。バスは五竜のスキー場の送迎バスで昨年と同じ人 *ヘルメットは軽いね、うん* の運転。「なぜ47か?」との質問に、「どこかの新聞

社が4季、週7日遊べるところ」との記事が出てそれにちなんでつけられたと。班分けは、 茂野組5人、森屋組7人、相澤組5人に分かれる。筆者は茂野組。天候はあまり良くない。



雪降りの上ゴンドラの上は霧が濃い。なるべく下の方で霧を避けて一時間半ぐらい滑る。 丸山さんが霧の中コースを熟知しているのは助かる。そろそろ47に行こうとゴンドラと リフトの乗り継ぎで出かける。47の方が霧は薄く楽しめた。R-1を降り昼飯にする。昼 飯時にストーブにつるして乾燥させていた原山さんの買いたてのゴーグルがなくなる。手 袋も一緒だったがそれは残っている所を見ると明らかに盗みであろう。一時間休みゴンド ラで上に。47の中間地点で何回か滑りお茶。少しだけの休みで五竜に戻り帰る。森屋組 は特記事項なしと。相澤組はお茶をしたレストラン「とおみ」の女将が京都の舞妓上り?



で迫さんが気に入り結局昼飯もそこで食べる ことになったと。晩飯は6時からで今日は酒 代各自負担でのみ介の集まりが出来ていた。

2月9日

今日は八方で滑ることになる。昨夜の新雪が10センチぐらいで雪質としては最高だが霧がかかるようだ。班の別れ方は少し異動があったようだ。ゴンドラで上がるとウサギ平の上は煙っている。その中でも茂野組は黒菱の上まで行った由。膝までつかる雪と霧で見えず降りるのに皆往生したようだ。元気な原山さんも左のひざの後ろを痛めたとかで何時も

にない慎重な滑りを ンドールに集まる。 ボーダーのニアミス 霧が濃くなり皆下の スが頭になく、国際 て苦労する。昨年同 の出来ていないこと かったようだ。風呂

にない慎重な滑りをしていた。皆事故なく昼はロンドールに集まる。ロンドールの前で森屋さんがボーダーのニアミスに会ったよし。午後はさらに霧が濃くなり皆下の方で滑っていた。筆者はコースが頭になく、国際コースの難所に行ってしまって苦労する。昨年同じところで苦労したのに学習の出来ていないことを嘆く。早めに上がる人が多かったようだ。風呂に入りひと寝入りする人もい

た。今日は田村さんがお腹の調子が悪く宿におら

れたようだ。夜は6時から宴会。 何時もの竹内さんのキムチと 雪中梅の差し入れもみんなで 楽しむ。この宿は小林さんの紹 介で来るようになったことか ら、前日電話した筆者が現状を 報告したが、幹事の喜多さんも 一週間前に訪問されたそうで

朝食べては滑り、昼食べては滑り、当たり前だが REST 'RANT'、CAFE O ン x - x



報告あった。小林さんにいない宴会のさび しさを語る人がいた。喜多さんが昨年のこ のツアーで衝突事故に会い記憶が途切れた 件で、皆さんにお世話になり感謝している 旨のご挨拶があった。何時もの通り最後に 宿の人に頼んで集合写真を取ったが、酔っ

払いに絡まれて 何度も撮り直し を要求されてい た。視界が悪い



ため慎重にならざるを得ず疲れた人が多いようだ。

2月10日

| 僕も一休み、いや本日は体調悪くお休みです

今日も八方。霧は昨日より薄いが相変わらず雪の一日。茂野さんが風がひどくなったとの事でお休み。朝食の後部屋を開け荷物を二階の荷物置き場に置いて出発。茂野組は森屋組に合流。森屋組が11人の大所帯になった。下で二本滑りリフトの乗り継ぎでウサギ平へ。ゴンドラの乗り場まで滑ったがゴンドラ乗り場が混雑列が出来ていた。今日は金曜日で週末につなげた人たちで込んでいるようだ。ウサギ平で二本やる。その後お茶。森屋組の7



70代男性5人と喜多さんがあがることにした。帰って風呂に入り荷物の整理をしてから何時ものリンゴやへ。リンゴやでの話題。 森屋さんにロッカースキーとはなぜロッカーなのか聞くと、ロッキングチェアーのように揺れる姿勢で滑ることからきていると。 *のん兵衛は僕らです、ハイ、うい*

お酒と蕎麦を堪能して帰途に着く。諏訪、団子坂で小休憩を取り8時前後に小平各地帰着。



八方尾根スキー旅行に参加して

竹村 公男 2012.2.10

「スキーの方がゴルフより末永く楽しむことが出来るよ。ゴルフは年々歳々どんどん飛距離は下降する一途だし何とかプレー続けられても口惜しい思いばかり。それに引き替えスキーは正しい滑りが出来れば(これが今もって大問題?ではありますが)若い人たちにもひけを取らず楽しめるよ。」とある先輩に言われたのが50歳頃のことでした。以来20余年、多少はまじめにスキーに親しんできました。

その頃からマスターズの皆さんとお付き合いできていれば今頃もっと上達していたでしょうが、私のような未熟なスキーヤーでも昨年に引き続きツアーに参加させていただいて深く感謝しております。

会員の皆さんすべてが、分け隔てなく旧知の仲のように温かく受け入れて下さって、 宴席では思わす羽目を外してしまいます。皆さんスキーの達人であるだけでなく、まさに 多士済々、硬軟とりまぜての話題にいつも大いに盛り上がりますが、話がスキーのことに 及ぶや真剣な眼差しで語りかつ傾聴されるのは流石!! と感服いたします。

小平マスターズの末長いご発展を心よりお祈りいたします。

厳冬の志賀高原ツアー 2012/2/26(日)~2/29(水)

乗越 登志子



2/26~29、今シー ズン最後のツアーは、

近年人気 No.1 の志賀高原、参加者は27名。

全観交通がチャーターした群馬の「なかい観光」のバスで、午後 4時、花小金井南口を出発、一路志賀高原を目指す。午後 6時、小布施P.Aで夕食、食堂、レストランは超満員、時間を気にしながら、そそくさと夕食を終える。午後 8時すぎ、



信州中野で高速を降り、1時間ほど走るといよいよ路面凍結地帯にさしかかり、タイヤチェーンを巻く。「タンタンタンタン、ピタパタピタパタ、タンタンタン」とにぎやかな音、何かと思えば、チェーンの端が路面を叩く音でした。午後10時すぎ予定より40分ほど遅れてホテルに到着。小平で迷い、ホテル周辺



疲れたね、ジャイアントでコーヒータイム

で迷い、ドライバーさん、予習不足でしたね。

27日 晴れ。超寒~い。この冬一番の寒波が日本列島を襲う。



フェニックスでも食前酒はこれだ、グー!



ロッカースキー、これいいわよ、

グー

午前 9 時集合: 「アラ、あの人 だれ?」、江戸時 代のウェアーを 脱ぎ捨て、平 成.24 年のニュ ーモードに衣替 え、頭に兜なら

ぬヘルメットを冠した Ha氏でした。「あのシ ョッキングピンクのお 嬢さんは?」、△tyか ら△teenに変身し たYさんでした。お二 人とも気合い入ってい ますねえ。

午前4時に小平を出発 して駆けつけた相



注文したメシ未だ来ない、腹グ~!

澤、沢渡両氏も加

わり、4班に別れて、午後4時までスキーを楽しむ。

午後 5 時半から夕食と宴会、新潟からおなじみの竹内さん、横 浜から真杉さんの友人の竹村さん、丸山さんのご近所から初参 加の岡戸さんをお迎えして総勢27名、和気藹々の宴でした。初 参加の岡戸さんも当クラブを気に入ってくださった様子、が 1 人増えるかも。

28 日 ヤッター!ピーカン! 各班少々メンバーに入れ替わりがあるも、それぞれのリ ーダーのもと楽しむが、張り切りすぎてか、アクシデントの多い日となりました。







ぐ~!の音も出ないほど食べちゃった、男性の満足顔にはきょう滑った光輝く 焼額?







瀬ファミリーの ウェーブとロントロールに失敗し転倒、 右前額ゴーのがあるがで切傷、 で切傷、右骨盤 指捻挫、右骨盤

Hiさんが一ノ

ヨッ!飲めなくても、のものも

打撲で救急室で手当てを受ける。初参加のO さんもあやまってモーグルバーンに入り、転 倒、メガネで鼻の両脇を切傷。

もう一つは、事故には至らなかったものの、ガンガン組のわんぱく紳士たちの奮闘記。 焼額に格好の斜面を見つけたS氏の先導で滑り出すも、突然 1.5~2mの崖が現れ、次々転落。立ち上がるのがたいへんだったとのこと。 M氏、S氏はうまく飛び降りたとか。格好の

スラロームバーンに見えた斜面はモーグルバーンに新雪がかぶっただけの魔の斜面でした。コブ斜面の得意なS氏とHa氏はうまく滑り降り、O先生とM氏はモーグルバーンを避けて、進入禁止のロープを潜り抜けて、安全なゲレンデに脱出。一番大変だったのがN氏、七転八倒の末、何とかケガはしなかったものの、命からがら帰還。難所に誘い込んだリーダーのS氏はお詫びにワインをふるまったそうです。夕食後の 427 号室での宴会は、このわんぱく紳士たちがゴンドラ内では男だけの楽しい秘話に盛り上がったことなど、楽しい話題に花が咲きました。

29 日 昨日の晴天は何処へやら、雪の降る中、昨夜からの深雪にもめげず、残り半日を惜しむように、皆、滑りまくりました。大雪で高速道路が通行止めになり、迎えのバスが遅れるとの情報で、1 時間ほど長く滑れた班もありましたが、予定より 1 時間遅れで、午後4 時、お世話になったホテルと山に別れを告げ、中央道を走り、途中諏訪 P A で夕食、午後11 時ようやく小平に帰還。今シーズン最後のツアーも無事楽しく終えました。幹事の皆様、

ほにとい皆来ンみ気んあうま様シをにで。とりごたま一楽おうがざ。たズし元



きょうも快晴 ここーノ瀬に 集合してから スタート!

私幹事の樋口です。皆さま後ろには焼額が待っております。滑る気満々です

「回想の中の雪たち」

茂野 本史



近頃、早く目が覚めるものの、しばらくは蒲団の中で取り止めのないことを思い浮かべていることが多くなった。雪の思い出もその一つである。

<初雪のこと>

私は越後平野の中心蒲原平野の東端に位置する小さな城下町で生まれ、高校を卒業するまでその地で育った。東南 10 キロほどに越後霊山の白山 (1,012m) が、町のどこからも眺められる。11 月中頃の初冠雪に続いて数回の降雪を見ると、やがて里にも冷たいみぞれが降るようになる。夜のうちに降り始めた翌朝、かなりの積雪となった初雪の日は殊のほか興奮したものだった。目が覚めると物音がいつもと違うのである。障子の桟に叩きをかけている音、まな板のトントンという連続音が間違いなくいつもと違っている。子供は実に鋭敏である。

初雪だ!蒲団から飛び出して廊下へ出ると、晴れた朝なら雨戸の隙間から実に明るい光がこぼれている。縁日の綿飴のようなにふんわりした新雪が目の前に広がっている。たとえ雪が降りしきっていてもこの嬉しさ、その興奮は雪国の子供の特権だ。

<雪遊びのこと>

*小学校の頃の雪遊びといえば、 道路でのスケートだった。3と8 の付く日は大通りや小路にち場が立ち、近在から多くの人たちが、近在から多くの人たちが集まった。当時は自動し、無ないがで除雪する習慣められたが終ますると道路は格好のでは来で踏み固めのスケート場となる。スケートと言れたが終わると道路は格好のこれが終わるとはなく、竹で出来を半りに割って、左右の前方部にカーブを持たがある。大い竹を半分に割って、左右の前方部にカーブを表して、左右の前方部にカーブを表して、左右の前方部にカーブを表して、左右の前方部にカーブを表して、左右の前方部にカーブを表して、左右の前方部にカーブを表している。



村松の大雪の様子(村松資料館展示) 道路の雪が建物の2階近くに達しているのが分かる。

をつけ、足袋をして下駄を履くようにして滑走するのである。気温の下がった日で、道路の雪面がよほどキラキラ硬くなっていないとなかなかスピードが出てない。それでも、 夜は星明りの下でも大いに楽しんだものだった。

*もう一つの遊びは"しみわたり"である。この遊びは冬も深まり、雪をかぶった畑地や田んぼ、原っぱなどの表面がパイの外皮のようにクラスト化してその上を歩き回ることが出来るのである。これを地元では"しみわたり"と言った。日中に融けた雪の表面が夜間に凍結して午前中くらい子供は無論のこと、よほど重量のある人でもなければ大人でも歩けるのである。道路を無視して目的地まで最短距離で到達できる。ただ、あま

り片足に力を入れすぎると、ズボッツと埋まってしまい、抜け出そうとすると今度は反対の足がズボッて事になってしまう。均等加重して歩き回り、その距離を競い、相手の失敗を笑っているうちに自分もズボッて破目になる、よく冷えた日にしか出来ない痛快な遊びであった。

<雪害のこと>

こう書いてくると楽しい事ばかりのようだが、江戸後期の越後塩沢の文人鈴木牧之が「雪国の難儀暖地の人おもひはかるべし」と『北越雪譜』に記しているように、何日も何日も降り続くときの豪雪の恐ろしさは雪国で暮らした者でないと分からない。最近はひどく少雪になってしまったが、積雪が人の背丈ほどになると、除雪車など無かった時代だから、鉄道も、バスも、数日間止まってしまう。人、物流が全く途絶えてしまう。暮れから正月にかけて豪雪に見舞われた時には、新年の挨拶回りも数日は遅れることになる。あの38豪雪(昭和38年新潟地方を襲った記録的な大豪雪)の時には、雪下ろしをした雪が雁木の高さを超え、人は道を横切る電話線を跨いで通ったそうである。災害出動で町の除雪に来た自衛隊熊本部隊の兵士が町の人にこの雪はどの位まで残っているのかと聞いたので冗談で3年くらい残っているだろうと答えたら本気にしたという話が町史に載っている。戦前から地方鉄道を経営していた父は想定外の除雪費用捻出の心労で一時精神的に相当参ったらしい、と跡を継いだ長兄から後になって聞かされたことがあった。

*鉄道でなくともどの家も屋根に降り積もった雪の雪下ろしをしなければ家は雪の重みで潰れてしまうのである。子供のいる家では、小学生の上級生からが雪下ろしの人夫役を務めた。屋根にはしごを架け、最初の足場を作るのが、第一の関門である。よく蝋を塗ったシャベルで50~60センチ四方の橋頭堡を築く作業をほぼ目の高さで行うのである。このとき、相当注意しても、掻き落とす雪の一部が顔に付着したり首から下着の中に入り込んだりするのである。橋頭堡の周辺から次第に除雪部分を広げて行くのである。大きくサイコロ状に切り取った雪の塊を力いっぱい下に投げ落とす作業をただひたすら繰り返す。用具も雪面の切り取り方も、投げ方も皆コツがある。事前にシャベルに蝋をよく塗っておかないと、力いっぱい投げ下ろしたはずなのに、シャベルに半分も雪がくっ付いていては能率が半減である。投げた雪が全部きれいにシャベルから離れて、下でドスーンという音を立ててくれないと精神衛生上も良くない。気が付くとあちこちで雪下ろしをしている。友達を見つけるとお互いに手を振り合う。高いところだからお互いよく見える。

雪下ろしは一日仕事で猛烈に体力を消耗した。夕飯が済むと死んだように翌朝まで眠り 込んでしまった。

★小学校、中学校時代の冬季の通学も大変であった。昭和21年に1200戸を超える大火に見舞われたため、校舎は町はずれの広大な敷地の中に立つ旧陸軍の兵舎を使用した。子供の足で40分以上もかかる。これを道路の真ん中に細く踏まれた雪道を列になって歩くのだから、足取りは当然のろくなる。途中、悪がきに脇に突き飛ばされて雪だらけになったりもする。

それでも学校のある期間は問題ないが、冬休みなどは登校するだけでも大変である。何 故そんな係りをしていたか今では思い出せないが、気象観測の係りをしていて、白一面 の運動場の一角に置いてある百葉箱まで踏まれていない深い雪を踏み分けて("こざいて")計器を観測して来なければならない。ゴム長を履いていても踏まれていない雪原を歩くのだから、どうしても雪が大量に入ってしまう、これが泣きたいほどの冷たさである。日直の女性の先生が同情してストーブで餅を焼いて振舞ってくれた優しさは今でも忘れられない。



広大な陸軍の施設の正門に建っていた営門と歩哨小屋 兵舎が小学・中学時代の学び舎であった。

<高校の頃のこと>

*雪と結びついている高校の記憶は われらがクラスのマドンナの思い出 である。

T嬢は聡明で品があり笑うと八重歯の可愛いい女性だった。額が秀で髪が7,3ほどの比で額を分けていたので、似顔絵が描きやすいのか、彼女の似顔絵が随分と出回っていた。男子生徒の憧れの人であった。ある冬の放課後、校舎に近いテニスコートに降り積もった雪面に数人の生徒が雪を踏みつけて彼女の特大の似顔絵を完成させた。ナスカの地上絵よろしく、地上では何が描いてあるか判別できない。

我々の教室がある3階からでないと全貌が捉えられないのである。彼女の特徴を実によく捉えた出来栄えであった。彼女の反応がどうであったか、もう覚えていない。残念なことに数日後の雨で彼女の顔はほとんど判別できない状態に融けてしまった。これも雪国の高校ならではの楽しい思い出での一つである。

*英語の先生に学識豊かなH先生がおられた。道元の研究者にして、その道元を慕った良寛さまに私淑されていた。若い頃は参禅にも励まれ、マスターズの秋の一泊旅行で訪ねた上越の雲洞庵が当時発行していた新聞「雲洞」にも参禅記を寄せられたことがあった。2年生の12月、先生の英語の授業中のこと、ふと気が付くと窓の外は雨が雪に変わって木々の枝の上が白くなり始めていた。

初雪だった。生徒の様子に気が付かれた先生は講義をしばし止めて窓の外を黙ったまま眺めておられたが、やがて初雪を見ると必ず思い出す小説があると言って、モーパッサンの『初雪』のあらすじを降りしきる雪から目を離さず実に懐かしそうに語られた。何故かこの光景が高校の授業風景の中で印象深く残っている。

*雪山の思い出もある。山岳部に所属していた2年生の春3月半ば近くのこと、戦前からの日本山岳会員でわが校の同窓会会長でもあったK氏が山岳部の有志を募って積雪期の日帰りの白山登山を企画された。ワカンなど冬山装備でのぞむものの、この時期の気象条件からすると、通常はそれほど苦労せずに登攀が可能であるはずであったが、それが行動日の2,3日前から山間部でかなりの降雪があり、一行は思いもかけぬ苦行を余儀なくさせられる仕儀となった。ワカンを履いていても太もも近くまで潜ってしまう新雪を先頭は全員交代方式で進んだが、ワカンを履いての歩行は両足を相当広げて歩かないと左右のワカンが衝突してしまうのである。普段使っていない筋肉を使う事と、深

い雪を、一歩一歩抜き差しをしながら登るので、筋肉に大変な負担がかかってしまった。 さらに悪いことに雪が降り出し視界不良となる。気温はどんどん下がる。やがて、筋肉 が硬直し痙攣が始まった。それでも激痛に耐えながら頂上直下まで進んだ。日帰りなど は全く不可能な状態に生徒は追い込まれてしまった。T氏は進むも退くも不可能な状況 を見て、ビバークを決断した。折りたたみ式のスコップやピッケルを使って、5,6人 が入れる雪洞を作って翌朝まで体力と天気の回復を待った。雪洞の中は意外に暖かく、 幸い痙攣も収まり睡眠も取れた。雪洞でのビバークは最初で最後の体験になるだろう。

翌日はウソのような好天。往路とは、別の最短距離のルートを選んで無事下山した。新雪が朝日を受けて雪面がキラキラ光り輝いている。こんなら見まなスパークリングを長時間見る。まなスパークリングを長時間見る。お出来たのも生涯で始めて誤るで設立とでいる。ないと記している。往路とは、判断を強いたのか、自著の中ではを込めて記録を残している。



わたしの青春の山でもあった霊山越後白山

<最後に、雪って何?>

雪とはなんであろうか?私たちのこころにどんな作用をするのであろうか。

雪はその冷たさ、融けやすさから、冷酷や冷淡、儚さを連想する人も多いようだが、私はその純白や、冷たさから浄化を強く意識する。或は降りしきる雪を飽かず眺めていると自分が無化していくようにさえ思われてくる。朝の冷気に身を震わせながらリフトに乗って雪景色を眺めていると本当に心底からこころが洗われる思いがする。

社会人になって間もなく父が新潟の大学病院に長期入院した。病状はほぼ絶望的であっ た。見舞いのため冬に何度も特急とき号に乗った。国境のトンネルを抜けると景観は一 変する。車窓の右に夕日に染まる上・中越の雪を頂く連山、その前のゴマを撒き散らし たような切り株の残る田や畑、信濃川の悠々たる流れ、何度も見慣れた風景なのに雪景 色の夕景はこんなにこころに染むものかとしみじみ思った。中村草田男に「降る雪や明 治は遠くなりにけり」という句がある。この句には自解もあるのだが、それでも様々な 解釈がある。雪というのは飽かず眺めているといつの間にか自分の現在の位置から遠く に連れ去られていくような感覚に襲われる。私は子供のころから天から際限なく舞い降 りてくる無数の灰色の雪片を見ているときまって吸いこまれ、どこか分からない遠いと ころへと運ばれていくような気がしたものだった。2.26事件は帝都の尺を超える雪 と切り離しては考えられないと三島由紀夫がどこかに記していたが、その真意はどこに あるのか、私には分からないし、言葉で巧く説明は出来ないが、感覚的にはまこと分か るものがある。近代日本の運命と本質をみごとに露呈したあの悲劇は雪という舞台装置 が良く似合うのだ。雪は多面的で、しかも捉えがたい深い象徴性を帯びて我々の精神と かかわりあう存在なのだと言うことである。 2012年9月17日払暁脱稿

立山三山パノラマトレイル

乗越 登志子

毎年7月~9月は、二人で夏山登山」を楽しんでいます。昨年は、私は3月の鎖骨骨折の治癒後でもあり、重いザックを担いでの登山は、あきらめ、夫は、テニスのやり過ぎで膝をいため、登山は無理となり、二人とも1年お休みしました。今夏は二人とも体調万全、7月は2泊3日で八ヶ岳、8月は2泊3日で立山三山を楽しみました。

八ヶ岳(7月13日~15日)は今年で5回目、大阪府立高津高校(私の母校)の卒業生で関東在住の山好き仲間に皓司も加わり9名で、今回は、JR中央線で茅野へ、茅野からジャンボタクシーで桜平へ、ここから登山開始→夏沢峠→硫黄岳(2760m)→赤岩の頭(2656m)→オーレン小屋(泊)(2330m)→箕冠山→根石岳(2603m)→東天狗→西天狗(2645m)→唐沢鉱泉に下りました。1泊目はオーレン小屋、2泊目は唐沢鉱泉を利用

しましたが、いずれも山小屋と は思えない、設備も良く、ちょ っとしたホテルか旅館のよう で、快適でしたが、肝心のお天



今年日本でも初めての氷河が発見された。剣岳の2雪渓と、また立山の雄山にある御前沢雪渓からも厚さ30m、 長さ700mの氷河があったと、9月に発表された。

気が、いまひとつで、3日間とも雲の中の山行となり、見晴しゼロ。こんなにお天気に恵ま



れないのは初めてで、「ざんざん降られるよりはましかな」と、慰めあいました。そしてキバナシャクナゲ、シオガマ、コイワカガミ、ジャコウソウ、ホタルブクロ、オダマキなどたくさんの可憐な高山植物に癒されました。

8月22日~24日は、クラブツーリズムのツアー「雄山・別山・浄土山・ 立山三山パノラマトレイル」に二人で参加しました。今度は三日間とも快晴、心配していた雷にも遭わず、素晴らしい山行でした。ガイドさん

も添乗員さんも曰く「三日間とも晴れて、雷もないというのは、めったにない」とのこと。 1日目は、JR中央線で松本へ、黒部アルペンルートで室堂をめざす。まず松本からバスで 扇沢、トロリーバスに乗り継いで黒部ダム、ケーブルカーで黒部平へ、次にロープウェイ で眼下に黒部湖を見ながら大観峰へ、このロープウェイは長さ1700m標高差500m をわずか5分で登ります。そして大観峰からはトンネルバスでようやく室堂(2450m) に到着。黒部平、大観峰からの展望はすばらしく、北アルプスの山々の大パノラマを楽し み、明日から2日間で登る山々を見て、ほんとに歩けるかしら?と少々心配になりました。

頂上にある雄山神社で祈祷を受け、お神酒を頂く



1 雷宿「察りう 自荘夜空がる星 なななな

を仰ぎ、天の川、夏の大三角(こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブ)などを見つけ、小型の天体望遠鏡で、月のクレーター、美しい輪っかをもつ土星、サソリ座のアンタレス、白鳥のくちばしの先に輝く、天上の宝石と呼ばれる美しい二重星(青と赤の)アルビレオを見せてもら

って、しばし感動。すばらしい夜でした。 2日目、朝6:30いよいよ登山開始、浄土山(2831m)に登り、一ノ越を経て雄山(3003m)へ、頂上の雄山神社(参拝料500円)で安全登山のご祈祷を受け、お神酒をいただく。それから大汝山(3015m)→富士ノ折立(2999m)→真砂岳(2861m)→別山(2874m)を難なく制覇。2泊目の 剱御前小屋に無事到着。

途中「我こそは山なり」と、雄々しくそ そり立つ剱岳を、横に、眼前にと見なが ら、北アルプスの山々、360度の大パ ノラマを満喫。山崎カールや内蔵助カー ル、そして最近発見された3つの氷河も



少し遠くに見えました。雷鳥の家族にも遭遇、親鳥2羽は登山道の真ん中で砂浴び中、人間が近づいても平然としたもの、2羽の幼鳥たちは親鳥のいる道から少し離れた笹原にいました。かわいいですよ。

3日目、朝6:40剱御前小屋を出発、お花畑を愛でながら新室堂乗越(2380m)を へて雷鳥平(2277m)、そして室堂へと下山しました。



夏の立山は薬師、五竜、鹿島槍、爺ケ岳、 蓮華、針ノ木、剱、常念、大天井、野口 五郎、蝶、赤牛、水晶、槍、北穂高へと 連なる北アルプス連峰の雄大なパノラマ と、花と残雪、岩と草原の華やかさが加 わり、すばらしい自然を満喫させてくれ ました。

今年は雪が多かったので、雪渓がたくさん残っており、お花も一週間前まで雪があったところでは、咲いたばかりのチングルマ、コイワカガミなど夏の姿が見られ、早く雪解けしたところでは、髭

のような種になったチングルマやアキノキリン ソウなど秋の風情もあり両方の季節を楽しむこ とができ、名前がわかったものだけでも20種 余りの可憐な花たちを見ることができました。 そしてロープウェーからみえる景色に「♪山よ さよなら、ごきげんよろしゅう一。また来る時 には、笑うておくれー」と小さく歌いながら山 に別れを告げました。

10月は日帰りで奥秩父の男山、天狗山の岩 稜歩き、11月は3泊4日で奥秩父の名峰五座、 甲武信ヶ岳、国師ケ岳、北奥千丈岳、金峰山、

瑞牆山を一気に縦走する予定。紅葉に包まれる美しい秋の山々を楽しみにしています。

場所により花の時期を楽しめます

最近の雑感

森屋 佐保子

今年の異常な夏の暑さは9月になっても続き、10月になってやっと 秋らしい日差しが多くなりました。涼しくなったら我が家の小さい庭の 手入れをしようかと思っていましたが、いざその時になると、なんやか



やと忙しさにかまけ、なかなか重い腰が上がりません。バラが好きで挿木をして増やした りと、それなりに楽しんで来ましたが、だんだん億劫になり虫が付いていても見て見ぬ振 り。今までそんなことはなかったのに、これも歳のせいかなと感じています。

🔯 四季咲きで楽しめます 長く咲いてて欲しいのですが

先日、私と母 の誕生日が近い のでお祝いを一 緒にと西国分寺 にある素敵なレ

とてもいい香りがします

ストランで祝ってもらいました。二人合わせて ちょうど160歳。母は高齢ですが足腰はしっ

かりして、一人で花小金井のカラオケ教室へバスを乗り継いで参加したり、カラオケスナ ックで何時間か遊んで来ます。帰ってくると「楽しかったあー」と嬉しそうです。仲間がい る楽しさを話しています。出かける時はお化粧もバッチリしてオシャレをして行く。そん

なことが生き甲斐のようです。遊べるのも80歳くら

いまでかなと思っていまし たが、90歳過ぎても人生を 楽しめる方法ってあるんで すね。

-*ソク立てず、1 6 0歳のハッピーバースデ*・

2013年 マスターズスキークラブ 行事予定 (1)

ツアー名	<u>ツア―No1 初滑り</u>	<u>ツアーNo2 スクール</u>	<u>ツアーNo3 八方ツアー</u>
	オシャレなリゾートホテル	温泉付きリフト前の優雅な 尾瀬岩鞍リゾートホテル!	外国人も人気度断トツの 八方で滑らなくちゃ~
	<u>玄関から楽々スキー</u>	今年は西山も再開予定	多彩な五竜にもバスで送迎
項目	前回は大勢の参加で大好評! 初滑りは変化に富んだコースで ゆっくり、好きなバーンで滑ろう	講師は森屋・岸本・相澤を予定 自由組希望は振込時記入、 多い場合は講師入ることも有り	丸金の食事もロンドール も林檎舎の蕎麦も人気
	上越国際	尾瀬岩鞍	八方•五竜
日程	1月8日(火)朝発 ~10日(木)	1月28日(月)朝発 ~30日(水)	2月12日(火)午後発 ~15日(金)
	2泊3日	2泊3日	2. 5泊4日
出発場所と配車順を注意 集合場所は従来通り4ヶ所	全観交通バス会社を	全観交通バス会社を	花小金井をいつもより早く
帰りは逆になります	朝6時15分~花小金井7時	朝6時15分~花小金井7時	午後3時発~全観3時45分
場所	上越国際スキー場	尾瀬岩鞍スキー場	八方・五竜スキー場
宿	ホテル グリーンプラザ上越	尾瀬岩鞍リゾートホテル	丸金旅館
電話	TEL 025-782-1030	TEL 0278-58-7131	TEL 0261-72-2114
会員費用	¥38, 000	70歳以上¥38,500 55~69歳 ¥40,000	¥36, 000
会友は+1,000円	3日間リフト券込み!!	リフト券込み(上記の差はリフト券代) 《注》パック料金のため一泊でも同額	リフト券別
募集人数	24名	20~24名	15~20名
申込み締切り日	11/30 締切り	11/30 締切り	11/30 締切り
申込みはメール希望 または葉書かFAX	12/5日迄に連絡ない場合、予定通り実施します		
申し込みFAX問い合わせは アンダーライン幹事電話へ	出口• 荻野:042-323-1883	乗越 ∙原山042−461−2059	小池 <u>·喜多:042-395-8923</u>
	〒187−0044	〒187-0011	〒189−0011
(郵便番号・住所)	喜平町1-6-33-203	鈴木町2−241−18	東村山市恩多町2-29-39 恩多マンション6-106
申込みアドレス	hagino@msd.biglobe.ne.jp	nobu19@zb3.so−net.ne.jp	masako_kita0709 @docomo.ne.jp
予約金は5,000円	12/5の忘年会でOK、12/6~10日迄に予約金を郵便振込、残金は当日徴収		
振込みは必ずツアーNoと 実施日を記入願います	郵便振込 口座番号 00170-3-397677		
交通手段全てバス	参加者少ない場合、参加者と相談(費用増える可能性あり)		

- ★ <u>シーズンインにあたって:スキー傷害保険の加入を忘れずに</u>
- ★ 予約金振込はツアー決定後、必ずツアーNoとツアー月日を記入して下さい。振込先は郵便局です。
- ★ キャンセルの場合はツアーの1か月以上前なら予約金は返金されます。

2013年 マスターズスキークラブ 行事予定(2)

ツアー名 ツアーNo4 志賀ツアー いつもの志智 ゲレンデ0分月 項目 志賀高原 ~3月1日(金) 日程 2. 5泊4日 出発場所と配車順を注意 集合場所は従来通り4ヶ所 帰りは逆になります 午後3時発~全観3時45分 場所 ホゥルス志賀高原 電話 TEL 0269-34-3355 ¥30, 000 会員費用 会友は+1.000円 リフト券別 募集人数 24名 申込み締切り日 11/30 締切り

申込みはメール希望 または葉書かFAX

申し込みFAX問い合わせは アンダーライン幹事電話へ

(郵便番号・住所)

申込みアドレス

予約金は5,000円

振込みは必ずツアーNoと 実施日を記入願います

交通手段全てバス



広い志賀高原を堪能しよう

2月26日(火)午後発

花小金井を八方と同じ

志賀一の瀬スキー場

現地参加は一泊8,000円

12/5日迄に連絡ない場合 予定どおり実施します

森屋•樋口:042-343-0106

〒187-0043

学園東町2-9-43-3

higuchim@icom.home.ne.jp

左ページと同じ

郵便口座番号00170-3-397677

参加者少ない場合、参加者と 相談(費用増える可能性あり) 忘年会で情報入手を!

日時:12月5日(水)5時半

場所:割烹 小諸042-341-9626 -橋学園郵便局信号西側50m

会費:酒飲む人 5.000円 酒飲まない人 4,000円

申し込み締め切り11月末

原山(090-9951-1226)

申し込みはメール・電話・FAX

この時に各ツアーの 申し込み金も受け付けます



月日:2013年<u>4月18日(木)</u>

秋の一泊が中止になり残念 な方がおりました。そこで来 年春に昔やっていた日帰り の行楽を実施したいと思い ます。参加費(バス代)・ルートなど詳細は参加希望者

行先は河西さんが住んでい ます山梨県の南アルプス市 の周辺を観光散策する予定 です。河西さんから送ってい ただいた山梨県の観光パン フレットに依ります見どころは たくさんあります。以前に私 森屋も一宮御坂ICの近く(笛 吹き市?)で桃の花が一面の 桃源郷に黄色の菜の花が咲 き、同時に桜の花が散り落ち る風景に出合って歩いたこと があります。その時期に合わ せて行います。他にも富士川 周辺で渓谷を散策や東の富 士山方面に行く道沿いにも素 晴らしい所があります。

申し込み金は不要です。申し込み 明限は忘れてしまわないために、 他と同じ<mark>忘年会の12月</mark>

参加者が少なくても実施しま 少ない場合は交通手段をバス以 外に変えることもあります。

> 担当幹事 090-9951-1226

小平スキー連盟行事案内

┷-連盟創立50周年記念 「みんなで滑ろう(仮称) スキーツアー、志賀高原」 楽しく滑るツアーです

平成25年3月8日(金) 夜中央公民館出発 3月10日(日)夜帰着

宿泊:

むつみ(タンネの森)または 志賀高原プリンスホテル (焼額山)

参加費: 後日市報掲載

申込:中央公民館 日時は後日市報掲載

申し込金:10.000円

- ▶級別バッジテストも行います
- ●詳細は忘年会や各ツアー ●下記連盟HPでも案内します

http://www.kodairashi-ski.jp/index.html

市民大会など

市民大会の日程は市報掲載 アサマ2000か苗場を予定 回転と大回転を一日で行う予定 詳細は11月の理事会で決定 年齢別で高齢者は少ないので 出ればマスターズで独占かも! お問い合わせは森屋へ

- * 他にもクラウンプライズやテク ニカルプライズの検定会と技術 選を3月23・24日で行います。
- *ジュニア(小3~高校生)のス クールは毎年、年末と3月下旬 にあります。お孫さんらにスキ-体験を。

その時の風景



- 編集後記 -

いつも挿入写真は私のを使っているため偏りがちになってしまうことや勝手なコメントはご容赦ください。私自身、何度もツ アーに参加していると、出来事がいつのだったのか忘れてしまうことが多くなりました。楽しい思い出を通信で振り返っていま す。クラブの懇親と皆様のツア―参加に少しでもお役にたてればと思って編集してきましたが、初回から永らく携わってきて マンネリ化しているのではないかと危惧しています。来年はぜひ他の方に担当して頂ければ幸いです。